

記事資料

米原子力調査団訪日について

外務省情報文化局  
昭和三十一年五月一日

一九五五年十月、シンガポールで開催されたコロンボ計画閣僚会議で、米国際協力局長ジョン・B・ホリスター氏は、アジアの経済、社会的発展に原子力を利用する一段階としてアジア原子核研究センターの設置を提案するとともに、同センターに対し、米政府がアジア諸国の学生の訓練資金、研究所設備およびこのような訓練のための用具を提供して、実質的な寄与を行う用意がある旨を申し出た。

米政府はこのアジア原子核研究センター設立計画を進めるにあたり、マニラに同研究センターが設立された後に、コロンボ計画諸国がその事業に参加できるように、コロンボ計画諸国の科学指導者の見解を充分に取り入れ、かつ相互に同意できる方法を決定

c114-013-004

2

する上に必要な示唆を得るため、去る三月ブルックヘヴン国立研究所が選抜した調査団を関係アジア諸国に派遣することになった。同調査団は団長マーヴィン・フォックス博士以下、コロンボ計画諸国の経済開発に関連して原子力の平和利用を研究中の十名からなり、三カ月にわたり、バキスタン、インド、セイロン、ネパール、ビルマ、タイ、インドネシア、マライ、ヴェトナム、ラオス、カンボディア、ホンコン、フィリピン、日本の十四カ国を訪問する予定であり、四月初めに米国を出発した。日本には六月三日に到着、十一日まで約一週間滞在するはずである。

一行は指導的な日本の科学者や当局者と協議して、アジア原子核研究センターが日本ならびにアジア諸国の必要に最もよく奉仕できるような示唆を得ることを希望している。

ブルックヘヴン調査団は帰国後米国政府に勧告を提出すること  
になつてゐるが、本年十月ニューヨークのウェリントンで開  
かれるコロロンボ計画会議で、この勧告に基いた細目提案が示され  
ることが期待されている。

なおブルックヘヴン国立研究所はイエール、ハーヴァード、ブ  
リントン、マサチューセッツ工科大学、コロンビア、ジョンズ、  
ホプキンス、ペンシルヴァニア、コーネルおよびロチェスターな  
どアメリカの九大学が管理している原子力平和利用研究機関であ  
り、ニューヨーク州、ロング・アイランドにある。

ブルックヘヴン調査団長マーヴィン・フォックス博士はブルッ  
クヘヴン国立研究所の上級物理学者であり原子炉部長である。団  
員一行は左の通り

ヴァイクター・ボンド博士（ブルックヘヴン国立研究所医学部）  
医師

ジョン・F・ホガートン（ヴィトロ・コロレイション・オ  
ブ・アメリカ社工学部計画支配人）

ハロルド・H・スミス博士（コーネル大学植物品種改良部教  
授、ブルックヘヴン研究所生物学  
部招聘上級植物遺伝学者）

ハロルド・B・トウケイ博士（ミシガン州立大学園芸学部長兼  
教授）

エムリー・ヴァンデンボッシュ博士（ケンタッキー大学政治学部長）  
兼教授

フレデリック・O・ヴォンダー・ラーゲ博士（オークリッジ国立研究所  
教育部長兼原子炉工学学校長）  
ソロモン・H・チャフキン（米国政府勤務経済学者）

H・A・スミス  
（同 右）

ライフ・ストロム  
（原子力委員会職員）

一行は日本滞在中に次の諸点について示唆を得たいと希望して  
る。

5

- (a) アジア原子核研究センターがはたすべき特定の目的。
- (b) センターとコロポ計画諸国の政府及び機関との関係。
- (c) センターにおける研究および訓練にとつて最も有益となるべき物理的な設備。  
*Physical facilities*
- (d) センター用技術器材およびこれを据付ける順序。
- (e) センターの職員募集と運営。
- (f) センターの研究生選抜と訓練。
- (g) センターを地域内諸国の最大の恩恵たらしめ、かつその援助を確保するのに必要な処置。

*specific purpose*